

人と防災未来センター 平成21年度事業評価

評価単位	評定	委員コメント
展示事業	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価書では来館者が減ったことが主たる要因として低い評価になっているが、それは各種の外的な一時的な要因が原因であってセンターとしての活動を低く評価することには繋がらない。 ただ、一度減ったものを戻すのは困難であろうが、それを期待したい。 地震だけではなく水害などの問題にも視野を拡げつつあることは評価できる。企画展や文庫の開設も同様である。
資料収集 ・保存事業	S	<ul style="list-style-type: none"> 目録の公開が100%、公開判別率70%達成など、数値目標を大きく超えて達成している。 神戸大学などの外部機関との連携も最近始めたにもかかわらず、資料公開、利活用、保存などにも成果を上げている。 過去の出来事のみならず、次世代を意識した取り組みも評価しうる。
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成事業	A	<ul style="list-style-type: none"> 他機関での研究の成果を震災との関連において行政、一般人、学生などへ伝えることの重要性を認識し、そのための努力が望まれる。 研究の内容においては高い評価を受けるものは少なくないが、「実践的である」という基準を厳格に適用して、研究課題を選択していくことが望まれる。
災害対策専門職員の育成事業	S	<ul style="list-style-type: none"> トップフォーラムの名のもとに、首長に対する防災研修というユニークな活動は高く評価できる。語り部の活動のような視点での活動を行う一方で、高い次元で判断しうる者を対象として防災の在り方を伝えるという活動は今後とも大いに推進されたい。 マネジメントコースと共に外部からの評価が高いために、人員の再配置なども含めて、トップフォーラムの回数を増やすなど増強を図る事が望まれる。
災害対応の現地支援事業	B	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応の現地支援という事業の性格そのものが必ずしも明確でなく、評価委員の間でも見解の相違があり、評価の視点が同じではない。 地震と水害などの災害との関係、災害発生後の被害調査、被災地などへの災害対応方法の支援、など主たる目標あるいは視点が揺らいでいるのではないか。
交流ネットワーク事業	S	<ul style="list-style-type: none"> 殆どの活動が高く評価しうる。すなわち、防災教育、語り部事業、防災セミナー、成果物の配布など、センターの外とのネットワークを通じての、各種の活動を今後も継続的に進められたい。 また、研究分野の者の数や時間を割いても、教材開発などを行って、この分野をさらに増強することなども考えてはどうか。

*評価基準 (4段階評価)

S : 大変評価できる

A : 評価できる

B : あまり評価できない

F : 評価できない